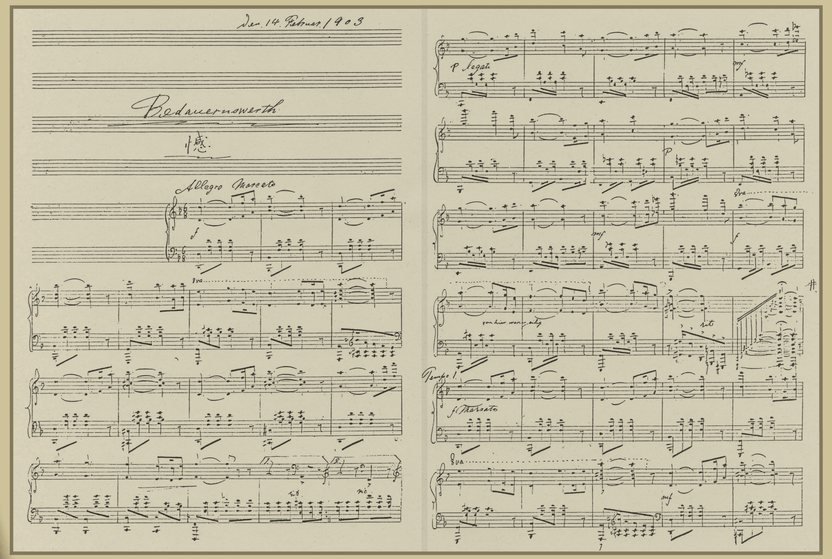
写真提供　大分市歴史資料館

Rentaro Taki

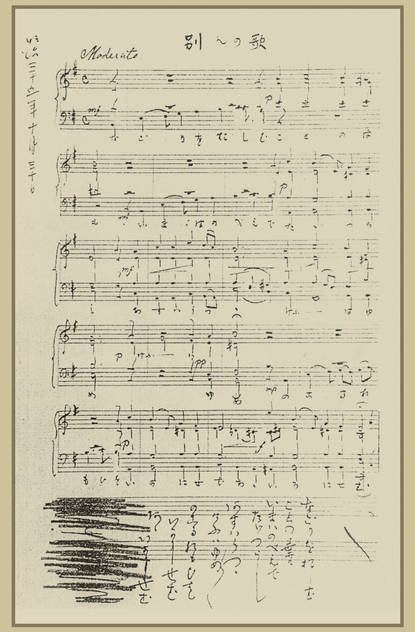
「憾」（うらみ／ドイツ語：Bedauernswerth）自筆楽譜

「憾」（うらみ）は、死の4ヶ月前1903年（明治36年）に作られた作品である。
「憾」とは、憎しみの気持ちのことではなく、心残りや未練、無念といった気持ちのことであり、
これが最後の作品となった。



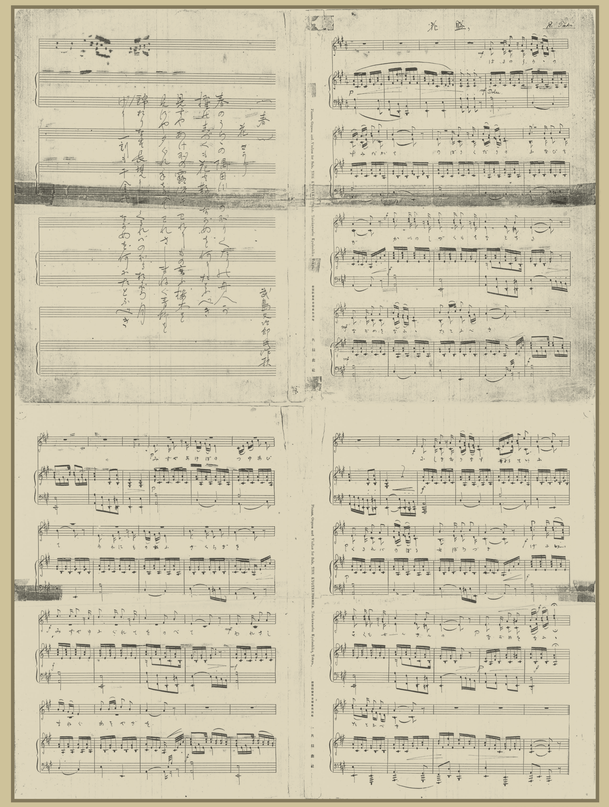
「別れの歌」自筆楽譜

楽譜には明治35年(1903年)10月30日の日付があり、その翌日には「水のゆくへ」を書き、さらに11月18日に「荒磯」を作っている。帰朝した年で亡くなる前の年である。



「花」自筆楽譜

この曲は1900年（明治33年）に組歌「四季」として出版された。
春夏秋冬の四部作の「春」にあたるこの曲は、当初のタイトルは「花盛り」であった。
日本人の手による歌曲の第一号、また、わが国初の合唱曲といわれている。



滝廉太郎の妹 故 安部トミ氏 所蔵